

エルとの別離

私をはじめて「別離」を経験したのは小学5年の時のことである。それまで家で飼っていた犬のエルがいなくなったのである。今「飼っていた」と言っただが実際には

しんせこ

家の人間でエルを心底可愛がるものはだれもいなかった。ただ何となく昔から家にいたので飼っていただけで、えさなども時々母がごはんに味噌汁の残り物をかけただけの粗末な物を与えていただけで、ほとんどほったらかしの状態だった。エルがいなくなったのに気付いたのも数日してからだった。

エルはその時すでにずいぶん老犬だったので、どこかで足でも悪くしてそのまま動けないでいるのかもしれない

さすが

いと家の人と話し合ったりした。そうすると流石に何だかわいそうかか可哀相になってある日の夕方私と姉の二人で近所の河原やしげみの中などをエルの名前を呼びながら探しに出掛けた。それでもエルは見付からなかった。

それからさらに数日してやっとエルが見つかった。昔

かんぶつ

あいしま

から時々家に乾物を売りにくる相島さんというおばさんがいた。その相島さんが犬好きで、家に来た時にはエルにえさをやったりして可愛がっていた。エルはそのおば

そまっ

さんが住んでいる粗末な小屋の横でひっそりと死んでいたのだ。エルは死ぬ間際になって本当に可愛がってくれた人のところに行つたのにちがいない。

私にとってそれはささやかな別離の経験ではあるが、なぜか今でも忘れられないほろ苦い思い出として残っている。

問題 みなさんは、どんな「別離」の経験がありますか。

「別離」をテーマにした200字程度の作文を書きなさい。なお書き出しは「私が始めて別離を経験したのは××才の時のことである。」で始めること。